

平成30年度 新潟市立図書館施策・事業評価シート

【新津図書館】

シートNo.1

◇全館共通項目は、中央図書館を含めた中心館が共通の意識を持って取り組んだ事業。  
 ◆館の重点評価項目は、新津図書館が重点的に取り組んだ事業。

区分	施策・事業名	概要	実施結果	評価		
				自己評価	外部評価	
ネットワーキングを活かした課題解決型図書館	◇全館共通評価項目 課題解決のためのレファレンスサービスの充実	・市民に身近な課題解決のためレファレンス(調査・相談)サービスを充実させ、迅速かつ的確な情報提供を行う。	・レファレンス件数は9,692件。 内訳 所蔵調査 9,025件(前年度比 10.8%減) 事項調査 667件(前年度比 32.8%増) 郷土関係は前年度比18%増 ・行政書士無料相談会を開催(4~6月 計6回 9名参加)	・所蔵調査は減少したが、利用者自身が館内設置の検索機や、インターネットなどで本を探すケースが増加傾向にある。また館内検索機はタッチパネルでの操作が可能のため、積極的に利用を奨めた結果といえる。 ・事項調査は調査相談サービスに対する利用者の認知度が上がってきている様子が伺える。貸出・返却窓口とは別にカウンターを設置し、職員が常駐することで、利用者が相談しやすい環境を提供できている。 ・行政書士無料相談会は一人1時間の枠であるが、相談が早目に終了した場合に、予約外の利用者も受け付けたため、参加者数増となった。	3 大変評価する。 85.7% 2 ある程度評価する。 14.3% 1 評価できない。0%	・レファレンスの認知度がますます上がることを望む。また、これからも利用者が相談しやすい環境の工夫をお願いしたい。 ・新しい取り組みを心掛け、利用者の利便性を考慮されていることは評価できる。 ・職員不足の中、常駐されていることは利用者としては相談しやすく利用しやすい。 ・事項調査の件数がカウンター設置職員の常駐などの取り組み大幅に増加しているのは評価できる。 ・カウンターを設置して、依頼しやすい環境づくりを行っている。
	◆館の重点評価項目 市民ニーズに対応できるよう、専門職、公務員としての資質向上を図るべく各種研修への参加を奨めます。	図書館業務関係及び地域を知るための講習会への参加、地域資料を知るための研修を実施する。	・研修参加職員数 延66名(平成29年度実績 延61名)	・区内の地域を知る研修、司書としての能力向上のための研修、その他公務員としての資質向上を図る研修に職員を派遣することができた。 ・レファレンスに関わるパスマインダーの見直しを行ったことは、職員の能力向上に効果があった。	3 大変評価する。 42.9% 2 ある程度評価する。 57.1% 1 評価できない。0%	・研修への参加でスキルアップすることは重要で、利用者のサービスにもつながることなので、積極的に参加してほしい。 職員の能力向上は利用者にとっても利便性の向上につながる。図書館への期待にもつながる。 ・職員の能力向上の効果は客観的に評価しにくい。
特色ある地域づくり図書館に寄与する	◇全館共通評価項目 地域資料の体系的な収集と活用	・各区を代表する人物・自然風土・産業等の地域コレクションの形成と展示を行う。	・郷土資料蔵書冊数 17,216冊(平成30年度末現在) 平成29年度から789冊増加	・地域のパンフレット、発行冊子を積極的に収集。 ・地域が国の史跡指定を受けた際は、関連資料の展示を行い、市民の関心を喚起することができた。	3 大変評価する。 85.7% 2 ある程度評価する。 14.3% 1 評価できない。0%	・古い歴史のある新津図書館は大切な資料がたくさんあると同時に特色ある地域づくりの大切な拠点になることで期待している。特徴ある図書館運営により地域づくりにも寄与できると考える。 ・今後とも秋葉区郷土資料の充実が期待される。 ・地域の図書館としての役割をしっかりと果している。
	◆館の重点評価項目 電子図書館機能を強化するとともに、新潟らしい特色ある資料の提供に取り組みます。	古地図などの郷土資料をデジタル化し、ホームページ上で公開する。	・新津図書館所蔵の古地図をホームページで6点を追加公開(累計41点)	・Web上で公開することで、市内に限らず、県外からも資料に関する問い合わせを受ける事例があった。 ・市内在住の研究者が研究成果をまとめる際に活用されたり、県外教育委員会から企画展示に活用されたりした。	3 大変評価する。 71.4% 2 ある程度評価する。 28.6% 1 評価できない。0%	・デジタル化することで誰でもどこからでも利用できることは評価できる。 ・ホームページへのアップロードなど情報発信に工夫が見られる。
子ども・社会・民融合型を推進する	◇全館共通評価項目 子どもの読書環境の整備	・ブックスタート事業を継続する。 ・赤ちゃんタイムの利用を促進する。 ・うちどく(家読)を推進する。	・1歳児誕生歯科検診受診者515名にブックスタートを実施(平成29年度は536名に実施) ・参加ボランティアは延72名(平成29年度は延81名) ・ちいさい子向けおはなしのじかん 参加者数 1,150名(前年度比 8.6%増) 毎回約10組の親子が参加している状態 ・幼児以上が対象のおはなしのじかん 参加者数 1,173名(前年度比 11%増)	・ボランティアの協力を得て、1歳児歯科検診を受診する保護者に、子どもと一緒に絵本を楽しむこと、絵本に対する子どもの反応を知ってもらうことができています。 ・ボランティアが読み聞かせの際に図書館の周知を行っていることで、毎週火曜日の赤ちゃんタイムには多数の親子連れが利用している。 ・ブックスタート事業初年度の子どもたちが小学校低学年となっている。秋葉区では読み聞かせへの保護者の認知度が高いことが伺える。	3 大変評価する。 100% 2 ある程度評価する。 0% 1 評価できない。0%	・(増加の)原因はよくわからないとのことであったが、幼少期から図書館に連れてきてもらい、地域の図書館に親しむことは将来の図書館のファンが増加につながると思う。 ・とても良い事業で幼いと時から正しい絵本でブックスタートを受けることができ、その後も継続することで保護者の認知度が高いことは大いに評価できる。 ・読書週間を大切に地域性とマッチングした活動を大いに評価する。 ・おはなしのじかんが開催率100%は内容に工夫が見られ、ロコミで広がっている証であると考えられる。 ・デジタル化している現在で本を読み聞かせるということはその後の読む力、聞く力つのでとても良いと思う。どんどんすすめてほしい。
	◆館の重点評価項目 学校、保育園、幼稚園等への支援	・職場体験、施設見学の受け入れ。 ・学習で使用する資料の提供。	・中学生職場体験の受入数 7名(平成29年度 9名) ・学校への団体貸出数は前年度から2.6%減。 ・保育園・幼稚園の施設利用及び読み聞かせ実施 6回(平成29年度 6回) ・幼稚園、子育てサロンなどへの講師派遣 3回(平成29年度 2回)	・職場体験の申し込みは全て受け入れることができた。 ・保育園、幼稚園、子育てサークルからの依頼には全て応えることができた。 ・学校への団体貸出の増減は、司書の異動、学校図書館活用推進校指定に左右される。しかし、貸出冊数は多くなくても活用推進校事業後、それまで活用の無かった学校の利用が見受けられるようになった。	3 大変評価する。 57.1% 2 ある程度評価する。 42.9% 1 評価できない。0%	・様々な機関との連携の持続・拡大をこれからも望む。 ・司書の異動、学校図書館活用推進校指定に左右されるとあるが、学校ボランティアに行っても違いを感じる事が多い。難しいが、学校への働きかけが大切と考える。 ・中学生に職場としての図書館は人気がないのか?もっと多くの学生に来てもらえたらと思う。 ・職場体験でどのような活動を組めるかPRも必要と考える(要望含め)。
パブリックパートナーシップと協働型を推進する	◇全館共通評価項目 ボランティアや教育機関・民間団体等との協働	・ボランティア・教育機関や民間団体等と一緒に事業を行い、市民との協働を推進する。	・おはなしのじかんでの読み聞かせボランティア 活動延人数 378名(全210回) ・配架ボランティア 延76名(全60回) ・主催事業での参加ボランティア 延40名(全6回)	・おはなしのじかんで季節ごとに内容が工夫され、子どもやその保護者に読書を身近に感じてもらうことができています。 ・配架ボランティアは無理のない範囲で活動を行っているが、定期的に活動している。 ・主催事業ではボランティアの助力が大きく、毎回盛況のうちに事業を終えることができています。	3 大変評価する。 57.1% 2 ある程度評価する。 42.9% 1 評価できない。0%	・継続は力なりだと信じている。毎回盛況のうちに事業を終えていることは大いに評価したい。 ・ボランティアの助力が大きい割には図書館主催の現活動ボランティアに向けてのステップアップ講座等が少ないように思う。 ・司書とボランティアの業務を明確にする必要がある。
	◆館の重点評価項目 ボランティア、関連機関との連携強化	・市民のボランティア活動が継続できるよう、支援や情報提供を行う。 ・読み聞かせボランティア養成講座を開催する。	・読み聞かせボランティア養成講座を開催(全4回 延参加者数 12名)	・ボランティア応募数が3名であったが、内容が充実しており、受講生には好評であった。	3 大変評価する。 28.6% 2 ある程度評価する。 71.4% 1 評価できない。0%	・養成講座はせっかくの機会であるが、3名の参加はもったいない。開催日や時間の検討をお願いしたい。内容が充実して好評であったために残念であった。 ・受講者の半数がボランティアグループに参加できれば養成講座を開催した方がいいと思うが、なかなか難しいのか? ・内容は充実しているが、参加者数の増加が課題である。